

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者様がこれまでの社会生活の維持を図って行う事を支援する為に、職員間で話し合い法人理念を元に、南寿の里独自のモットーを作りあげた。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	モットーに基づいた、事業目標・事業計画を職員間で話し合い、実践している。職員室やフロアにも掲示し、申し送り時に確認を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	御家族に対しては、玄関やホーム内の共有スペースに掲示したり、ホーム便りの中で取り上げて、理解して頂けるよう取り組んでいる。地域の方々へも法人の広報誌や、秋祭りの際に南寿の里の役割や目的について御理解頂けるよう取り組みをしている。	○ 地域の方々への取り組みとして、単発的な行事のみではなく、もっと密接に定期的にかかわる機会を持ち、南寿の里での取り組みを広く地域に理解して頂けるようにする。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣の保育園とは、互いの行事に行き来したり、近くを通った際には、声を掛ける等の付き合いが出来ている。ホーム内を開放しての行事を企画し、南寿の里に居ながらにして、社会性の維持が図れるよう町内会やボランティアに来て頂いている。また、地域のボランティア団体主体の催しなどに招待して頂いている。	○ 事業所として地域に役立てるよう、地域活動を理解し、交流を図って行く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービスの質の向上に向けた自己評価及び外部評価の意義を職員間で確認し、評価に取り組んでいる。評価であがってきた問題点・課題についての気づきを大切に、改善に向け取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員やボランティア、保育園、御家族、行政等、毎回多くの方に御出席頂き、頂戴した御意見については、運営や活動に反映させている。また、地域での取り組みについて教えて頂いたり、認知症についての啓発活動を行ったり、新たに取り入れたプログラムや、感染症予防策等を紹介を実施している。会議を通して、地域の方々にボランティアで行事に参加して頂くなどして地域交流に結びついている。	○ 出席者にとっても有意義な会議となるよう、介護保険制度や介護予防プログラム等、出席者に役立つ情報を積極的に提供して行く。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外においても、市の担当者へは随時制度についての確認事項や報告等を行っている。市のグループホーム協議会で、定期的に市との懇談会を開催し、要望や意見交換を実施している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会開催し、職員の理解を深めている。実際に成年後見制度を活用している方に対しての支援を行ったり、必要とされる方への助言を行っている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、虐待防止を図っている。事業所内にポスターを掲示し、高齢者虐待防止法について情報提供を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	苦情箱を一箇所ではなく、数箇所設置し、小さな事でも苦情として表せる、苦情箱に入れられるような環境を作っていききたい。
14	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	現在の2交代から遅番を配置し、夜間の入浴や夕方の活動の充実を図る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	変更が分かった時点で入居者様へ伝えており、ダメージの軽減を図っている。新職員が配属になった場合には、入居者様へ紹介をし、ホームの事を教えて頂けるよう工夫している。又、「南寿便り」やホーム内の掲示板にてお知らせしたり、御家族の方が面会に来られた際にご挨拶を行い1日でも早く馴染んで頂けるよう努めている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に関しては、勤務年数に応じて参加基準を設け、年間計画に沿って研修に参加している。また、それぞれの職員の申し出により参加し、研修参加後は報告会を開催している。法人内では法人全体や、施設内の勉強会の開催を行っており、全員が参加できる体制をとっている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護関連施設との合同研修へ参加、外部研修、グループホーム研修会へ参加している。その際他グループホームとの意見交換を行い、質の向上に向けての交流を図っている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	上記に記したように、外部との交流を図ったり、勤務外の楽しみとして法人内のソフトボールチームを設けている。職員のストレス発散や親睦を深めている。又、休憩室を確保しており、入居者から離れ職員同士の会話ができるよう精神的リフレッシュを図っている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に2回管理運営会議を開催し、管理者が現場からの提案や状況を報告する機会を設けている。職員の就業規則は遵守されており、健康診断は夜勤に入っている職員が年2回、その他の職員は年1回必ず受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居相談があった際にはご本人やご家族にお会いし、ご本人様の状態を確認したり、ご家族の要望や抱えている不安などを伺っている。また、こまめな電話や必要に応じて訪問などを行っている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族のニーズを理解し、どのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。相談に至るまでの本人様やご家族の状況の把握に努め、可能な限り柔軟な対応、次の段階の相談に繋げている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人様やご家族の見学時に、他の入居者様や雰囲気に触れて頂く機会作ったり、環境作りをしている。又、本人様に関わっていた関係者に生活状況や精神面などのお話を伺い、全職員が柔軟な対応が出来るよう努めている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者様個々の楽しみ事や出番を見出せるよう、日常生活やレク・趣味活動で場を提供し、職員と一緒に分かち合える環境を作っている。又、馴染み深い昔からの伝統行事や風習などは入居者様から教えて頂きながら進めていく形をとっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に随時、入居者様の状態報告を行い、必要に応じて電話連絡で状態報告を行うなど、情報交換している。又、ご家族の方へ行事参加を促し、一緒に過ごしていただく時間を作っている。	
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事へ御家族の方も参加して頂けるように呼びかけたり、ホーム内のくつろぎスペースに入居者様の日常生活の様子に分かるよう、アルバムを設置しておき、御家族との会話が弾むような環境作りなど、より良い関係作りを支援している。	○ ご家族の方も参加して頂きたくなるような行事を増やし、楽しく過ごしていただけるような環境作りをしていく。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの生活習慣を尊重し、入居者様や御家族の希望に応じられるよう支援している。又、馴染みの美容院などへ外出したり、電話や通信手段にて関係が途切れないよう支援している。	
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様の残存能力やその時の状態を見極め、状況に応じて役割分担を援助している。また、入居者様同士で助け合いながら日常生活を行っていただけるような働きかけをしている。食事の席も仲の良い方同士が隣で召し上がられるよう配慮している。	
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も御家族との情報交換、関係する保健医療福祉の関係者と情報交換をとっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面の中で、本人様の思いや意向を引き出せるようこまめな声掛けやお話などをし、表情も含めた心情の把握に努めている。困難な方も同様であり、検討、職員間での協議や御家族との話し合いにて対応している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を、御家族や以前利用していた機関へ仰ぎ、経過やその時の状態、本人様の全体像を把握するよう、努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者様個々の認知症の症状やその日の状態に合わせ、職員がその状態に応じた対応を行っている。又、個々によっての精神不安定時の特徴を把握しており、不安除去の為に音楽や会話等で精神状態を和らげるなど個別の対応が出来るよう工夫をしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、御家族、関係者との話し合いや連携をとり、反映する介護計画を作成し、御家族には確認印をもらい理解を得ている。又、モニタリング時も同様である。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	疾病及び状態、機能に変化が見られた場合は期間前であっても随時見直しを行っている。その際、本人様、御家族、関係者との話し合いのもとで作成されている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	<p>地域のボランティアや保育園だけではなく、受け入れる範囲広げ、多くの方々との交流を持っていただき充実を図る。</p>
38	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
39	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の他、入居者様やご家族の希望に沿った主治医となっている。受診については、受診の付き添いや情報提供用紙の作成し、受診前に医療機関と連絡を取るなどし、適切な診療が受けられるよう支援している。		
41 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	それぞれの認知症に対する係りつけ医があり、受診の際には情報提供用紙などで、本人様の日常の経過報告をしている。又、状態や機能に変化がみられた場合や緊急時には、係りつけ医や看護師に相談し、助言や指示を頂き、適切な治療を受けられるよう支援している。		
42 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、定期的に入居者様の状態や体調管理を行っている。又、緊急時には、24時間連絡を取れる体制を整えている。		
43 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時に本人への支援方法に関する情報を医療機関へ提供すると共に、本人へのお見舞いを行っている。家族とも情報交換しながら、回復状況の確認や退院について、医療機関との話し合いをしている。		
44 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りに対する指針を定め、入居の際にご家族・本人の同意を得ている。本人様やご家族との話し合いを行い、意向に添った支援が出来るよう、医師や関係する医療機関とも話し合いを重ね、本人様、ご家族が満足する支援を提供している。		
45 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人様やご家族の意向を踏まえ、かかりつけ医や医療機関と連携をとっており、本人様とご家族が納得していただけるよう、密に意志の確認をしながら可能な限りの支援に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>情報提供用紙・インテーク、支援状況、生活状況等の情報交換を密に行い、住み替え時に本人様へのダメージが最小限に抑えられるよう努めている。定期的に馴染みの職員が面会へ行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>書類関係や他者の目にふれるような備品などの記名はインシヤルにて対応している。ホーム内の掲示物に関しては、本人様・ご家族の了承を得ている方のみ実名付きの掲示としている。また、排泄などの介助は羞恥心を配慮し、さりげない対応を行っている。居室への入室の際も、ノックをしプライベートな場面への配慮を行っている。</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> <p>色々な場面でその方に合った説明や声掛けをし、本人様の意思や自己決定を促す取り組みをしている。言葉以外に受け取られるものへも注意し、又、複数の選択方法を用いて自己決定出来るように工夫している。</p>	○	選択方法を増やし、全入居者様が自己決定していけるような環境を今以上に作っていきたい。
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> <p>一日の流れは基本的にあるが、その日・その時の本人様の状態や気分、思いを尊重し、一人ひとりの希望に添うよう、支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> <p>ご家族の協力のもと、行きつけの美容室での毛染めやパーマ、ホームへ招いての散髪、隣接施設へ来る理美容師を利用する等、一人ひとり合わせた支援を行っている。普段も髭や整髪、服装、口紅等のおしゃれをサポートしている。又、薄化粧されている方もいる。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事は業者へ委託しており、配送してもらっている為、盛り付けの際においしそうに見えるように話し合いながら一緒に行っている。又、片付けは個人の力量に合わせ作業を分担し、役割を持って頂いている。月2回炊事を行っており、その際は献立から材料、買い物まで一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ティータイム（10時を15時）を設ける他、希望に応じて飲み物を提供している。飲み物は、多くの種類を用意しており、いつでも飲めるようにしている。おやつは好きなものを一緒に作ったり、用意している。食事制限のある方は、主治医や栄養管理課の指導の基、希望に添えるよう、支援している。又、ご家族の協力にて、本人様の嗜好品を持ってきて頂いており、居室にてお一人や仲の良い入居者様と選んでいただいている。	○	おやつも数種類の中から、その日召し上がりたいものを選んで頂けるよう、個々の身体状態にも留意しながら実践していく。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日の排泄パターン表を作成、把握し、トイレ誘導時間の検討や声掛けを行い、失敗の軽減やトイレでの排泄を促す取り組み、支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めておらず、週2～4回の入浴が出来るよう支援している。又、汗をかく時期や畑作業後などの声掛けや本人様の希望により、入浴・シャワー浴・足浴をして頂いている。馴染みの銭湯へ行きたいとの要望があり、御家族と協力しながら銭湯での入浴を支援している方もいる。	○	現在の2交代から遅番を配置し、希望者への夜間入浴の実施を目指している。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、食後や希望に合わせて休息をとって頂いている。夜間の眠りの浅い方やなかなか寝付けられない方は、日中の活動を促したり、就寝前の足浴や話し相手、添い寝などし安心感やリラックスして頂けるよう、工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は個々の生活歴を把握しており、大工仕事や農作業、裁縫、習字等を日々の中に取り入れ、一人ひとりが活躍出来るよう支援している。又、掃除や食後の片付け等、本人様の力量を見極めてお願いし、役割を持って頂けるよう、支援している。		


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は行っていない。外出（買い物時）には、事前に御家族と相談し、お金を準備して頂き、購入や支払いを行えるよう支援している。		
58 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気やその日の気分・希望に応じて、近隣への散歩や買い物などしている。歩行困難な方や遠慮しがちな方へも、出掛けたいと言えるような雰囲気作りや希望に添えるよう、支援している。		
59 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1～2回程（4月～11月）の外出行事の際は、行ってみたいところや普段行けないところへ出掛けられるように、入居者様と話し合い、計画、実施している。その際、南寿便りやホーム内にて行事がある事を知らせ、ご家族への参加を募り、一緒に出掛けられるよう支援している。		
60 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に応じて電話使用して頂いている。又、他者に声が漏れないように、職員室にて会話して頂いている。毎年、年賀状や暑中見舞い用のはがきをレクリエーションで作っており、書く事が困難な方は、希望に応じて職員が代筆をする事もある。		
61 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定しているが、ご家族の出勤前や仕事後など、時間外の面会も受け入れている。ご家族や友人の方の面会時には自室以外にも、居間やアルコーブなど自由に使用して頂いており、ホーム内に季節に合わせた装飾をする事によって居心地の良い環境を整えている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。身体拘束に関する勉強会を開催し、周知徹底、実施されている。判断を要する場合でも、状態の安全・安定の為、他職種（医師、看護師）等から身体拘束を行わなくて良い方法や助言を受け、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	○	実際に職員が身体拘束の体験をし、身体的・精神的な苦痛を身をもって感じられるような勉強会を行っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>消防の方への運営推進会議への参加を促し、避難訓練以外でも助言をいただけるようにしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	測定時間外でも顔色や様子の変化が少しでも感じられた場合は、バイタル測定を行っている。状態変化時は、ご家族・看護師へ報告し、病院受診の検討を行っている。主治医からの指示にて一日2～3回のバイタルチェックを行っている方もいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	測定時間外でも顔色や様子の変化が少しでも感じられた場合は、バイタル測定を行っている。異常にあるないに関わらず、ご家族・看護師へ報告し、病院受診の検討をして頂いている。主治医からの指示にて一日3回のバイタルチェックを行っている方もいる。		
71 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容は個人の経過記録のファイルに挟めており、職員は作用・副作用について把握している。状態の変化の確認をし、かかりつけ医や看護師、ご家族への報告をしている。又、食べ合わせの悪い食品なども把握しており、食事の際は代替する食品で対応している。		
72 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	勉強会などで便秘について理解している。便秘予防として身体を動かすレクリエーションや食べ物（乳製品・食物繊維を多く含む）にて自然排便できるように支援している。又、バイタル表に、排便状況の欄を設けており、全職員が把握している。		
73 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	勉強会、研修会へ参加し、口腔ケアの大切さを理解している。自立されている方に対しては、各自行ってもらっており、自力での清潔保持が困難な方へは、口腔内清拭などで対応している。個々の能力に合わせ、声掛け、ジェスチャー、職員も一緒に歯磨きするなどして、支援している。		
74 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表に個々の1日の水分・食事量を記載する欄を設けており、記載し把握している。不足がみられた際は、水分の種類や声掛けにて補給して頂いている。食事量も個々に合わせてかかりつけ医、看護師、栄養管理師やご家族と連携を取り提供している。摂取不良等あれば、かかりつけ医や看護師、栄養管理師へ報告し、量や内容変更に関する助言を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	勉強会・研修会への参加、感染対策に関する資料の掲示、対応マニュアルの作成など、全職員周知している。感染予防としては、手拭のハイター漬け、手指消毒、うがいの励行、床や椅子などハイターでの掃除など行っている。又、毎年入居者様と全職員はインフルエンザの予防接種を受けている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾、調理器具等は一日2回漂白している。まな板、調理器具に関してはアルコールスプレーをしてから使用している。食材はその日の内に摂取し、余った物は破棄している。又、冷蔵庫内の消毒を毎日行い、その際に食材の確認を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇や建物周辺に季節の花や野菜を植えており、今では、来客される方に畑の話題を持ちかけられたりしている。ご家族の来訪時は、親しみを持って頂くよう職員はご家族との交流を図り、何度でも来て頂けるような雰囲気を作る努力をしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じるような装飾をしている。入居者様の作品などもご本人様やご家族の同意を得て飾っており、入居者様と一緒に考えながら装飾している。希望がきかれた際は、民謡や演歌などのCDを流しくつろいで頂いている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭が見える空間と畑が見える空間を設けており、皆様の共有スペースとなっている。その時の気分によって、静かな場所で休まれたり、音楽をかけ、和まれる空間を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	ベッドは施設で準備したものであるが、タンスやテー ブル、椅子などは、馴染みの物を持ち込んで頂いている。そ の他にも購読していた本やラジオ、時計などを持ち込み んで頂き、配置も危険な範囲で入居者様、ご家族と一緒に行 い、本人様が居心地の良い空間になるように支援してい る。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	常に換気扇での換気、消臭元を設置しており、臭いは感じ られない。ホーム内3箇所に温湿度計を設置しており、入居 者様の状態をみながら、温度、湿度調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の残存能力や適応能力に応じて可能な限りトイレから 近い居室や食堂に近い居室にするなどの配慮を行っている 。本棚の高さは車椅子の方も選び取りやすいように低い 位置に設置している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室の入り口には部屋毎に違う看板を設置し、ご自分の居 室が分かるようになっており、トイレにも目印や看板を設 置、個々の状態に合わせ常に環境整備している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	庭に畑を作り、そこで畑仕事ができるように工夫してい る。中庭や庭にはベンチを設置しており、作業を行えない 方も会話や日光浴ができるようにしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様がその方らしく、一日一日を笑顔で過ごして頂けるケアをモットーに、認知症であっても諦めず、尊厳を持って生活して頂けるよう支援しています。地域での催しに参加したり、地域の方をホームに招いたり、ホームにいながらも社会性の維持を図り、地域の中で生きて行くことを支援しています。また、ご家族との関係を修復・維持できるよう行事への御家族の参加を依頼したり、毎月入居者様の暮らし振りを便りに載せて発行しています。家事活動や趣味活動においても、入居者様が役割を持ち、存在価値を見出せるよう個々の能力、生活暦に応じた支援を行っています。